

— 広告 —



小濱 裕典

（おぼま ゆうすけ）  
金沢工業大学大学院工学研究科  
機械工学専攻  
博士前期課程二年  
広島県立福山誠之館高等学校出身

## 金沢工大でガムシヤラになれた。 それが一番大きな成果ですね。

KIT  
キャンパス  
レポート④  
文・出島二郎  
マーケティングプランナー

まだ段階的にせよ、ようやく大学のキャンパスに活気が戻ってきた。学生のいる風景は好ましい。小濱さんも、自粛中の研究計画を立てる日々やリモートのもどかしさが解消されて、表情は明るい。昨年中に授業の単位を取り終え、かつ研究が進み、二度の学会発表を経験していたので、焦りはない。

「父が製鉄会社に勤務し、何度も工場見学をするうちに父の後ろ姿がカッコイイと思うようになって。金沢工大は母の友人の薦めがあり、それから調べ始めました。就職に強いのはもちろんですが、実験的研究が盛んで、学生の論文発表が多いこと。とりあえず行動しようという、ぼくの性格に合っていると思うんです。」  
現在の研究テーマは「工場など

から排出される比較的、低温度・小温度差の廃熱回収について」。一〇〇度以下を想定し、最終的には熱交換器の設計を目標とするが、基礎データを集積すれば未来にたなくこともできる。指導する藤本雅則准教授の専門は熱工学（小温度差熱エネルギーの移動と利用、電場を利用した熱・物質移動の促進と制御、熱物性など）。毎年、定員超えの応募のある研究室だ。

「環境問題に積極的に取り組む姿勢が熱く伝わってきたのが藤本研究室でした。それに、ぼくは苦手なことに飛び込むタイプで、四力といわれる機械・熱・材料・流体の中で熱力学が一番苦手だった。この苦手を克服し、それが好きに変わった瞬間に長続きすると思っ

ているんです。だから今は楽しい。学部で就職をと少し動きましたが、周囲の方から背中をポンと押されて院進学を決めました。」  
機械工学の就職先は幅広い。小

濱さんは学部時代の経験から、就活の軸を地元・広島のみでなく、世界へ、である。どの部署でも頑張れると、手応えを感じているようだった。  
「金沢工大に来て、ガムシヤラになれたと思います。高校までは受動的だったのが、日常的に考える習慣ができましたね。授業や研究、先生や友人、とにかくディスカッションする場が多いんです。そして、いい意味で泥臭いというイメージがあります。ものづくりへの熱意、日本人として何ができるかというような。」

学部生の指導にも熱心な小濱さんは、積極的に話しかける。優秀な学生には院進学を薦める。父親や藤本先生が示してくれたような、背中で語ることができる人間になろうとしているのだと思った。

**金沢工業大学**  
石川県野々口市扇が丘七七一  
電話番号（〇七六一）四八二一〇〇